

平成 28 年 12 月 12 日

国土交通省 中国地方整備局長

丸山 隆英 殿

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

委員長 大久保 賢治

灰塚ダム定期報告書の総括について

中国地方ダム等フォローアップ委員会は平成 28 年 12 月 12 日に灰塚ダムに関する定期報告の審議を行い、下記 10 名の意見により本フォローアップ委員会としての総括をとりまとめたので提出する。

記

氏名	役職	専門分野等
海野 徹也	広島大学大学院 生物圏科学研究科 准教授	魚類
大久保 賢治	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	河川工学
河原 能久	広島大学大学院 工学研究科 教授	河川工学
清家 泰	島根大学大学院 総合理工学研究科 教授 島根大学 汽水域研究センター センター長	水質
関根 雅彦	山口大学大学院 創生科学研究科 教授	水質
鶴崎 展臣	鳥取大学 地域学部 教授	動物
中越 信和	広島大学大学院 国際協力研究科 教授	植物
檜谷 治	鳥取大学大学院 工学研究科 教授	河川工学
福本 幸夫	広島市安佐動物公園 元園長 帝京科学大学 元教授	鳥類
山田 知子	比治山大学 現代文化学部 教授	社会環境

(五十音順)

第 26 回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

灰塚ダム定期報告書の総括

- 「第 26 回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「灰塚ダム定期報告書」の審議を行った。
- 審議は、「洪水調節、利水補給、堆砂、水質、生物、水源地域動態」について、平成 23 年度から平成 27 年度までの期間を対象として行った。
- 「洪水調節」については、評価期間である平成 23 年度から平成 27 年度の間に、計 3 回の洪水調節を実施し、所期の機能を発揮している。今後も引き続き、適切に管理・運用し、洪水調節を行われたい。
- 「利水補給」については、所期の機能を発揮している。今後も適切な管理・運用を行い、所要の利水補給を行われたい。
- 「堆砂」については、問題は生じていない。流況との関係も踏まえ、今後も堆砂状況を継続して把握されたい。
- 「水質」については、アオコ発生やカビ臭発生等が課題である。今後も、管理や対策検討に必要なデータの蓄積に努め、適切な管理・運用を行われたい。さらに、現在の水質保全対策を見直していくことや流域の汚濁負荷低減に向けて、関係機関との協力・連携を行われたい。
- 「生物」については、対象期間内に調査を行った分類群では、生息・生育環境に大きな変化はみられていない。今後も河川水辺の国勢調査を継続し、動植物の生息・生育環境の把握に努められたい。
なお、特定外来生物の駆除やフラッシュ放流については、適切な方法で効果の確認に努められたい。また、ウェットランドの効果を積極的に評価されたい。
- 「水源地域動態」については、灰塚ダムが果たす地域での役割を適切に踏まえ、水源地域との協働により、ダム周辺での自然環境、周辺施設の活用が促進され、地域の活性化や環境保全がなされるような取り組みを行われたい。さらに、近年の社会資本整備の効果も積極的に活用されたい。